



『主の御復活おめでとうございます』

エルネスト 島袋幹男 主任司祭

「あなたがたに平和があるように」というみ言葉は、復活した主イエスが使徒 たちに最初の挨拶でした。私たちの周りに戦争、暴力、不公平、個人主義、利己主義など多く続いています。それで人間は恐怖を感じています。しかし復活したイエスが“恐れることがない”と教えています。復活したイエスの弟子として、私達は混乱の状態にある世界に、神の愛と許しを教え伝えていきましょう。この世に神の平和を。復活の喜びで私達もこの世に信仰、希望、愛を実現することが出来るように。

教皇レオ 14 世が今年 1 月 10 日から来年 1 月 10 日まで特別聖年「聖フランシスコ年」として過ごすようにおっしゃいました。今年の主の御復活祭の中で聖フランシスコとともに世界の平和のために祈り続けていきましょう。

アッシジの聖フランシスコの祈り

神よ、私をあなたの平和の使いにしてください。
憎しみあるところに、愛をもたらすことが出来ますように。
いさかいのあるところに、赦しを
分裂のあるところに、一致を
迷いのあるところに、信仰を
誤りのあるところに、真理を
絶望のあるところに、希望を
悲しみのあるところに、よろこびを
闇のあるところに、光をもたらすことが出来ますように、
助け、導いてください。

神よ、わたしに、
慰められることよりも、慰めることを
理解されることよりも、理解することを
愛されることよりも、愛することを望ませてください。

自分を捨てて初めて自分を見出し、
赦してこそゆるされ、死ぬことによるのみ
永遠の生命によみがえることを、
深く悟らせて下さい。



「エマオへの道」

Sr. Marie Chrisitina 西尾

主のご復活、おめでとうございます。とても不思議なのですが、クリスマスの意味もイースターの意味もほとんど知られていない日本で、イースターという言葉だけはイースターエッグやイースターバニーと共に有名ですね。中でもディズニー・イースターはまさにキリストの復活とは全く関係のない内容で、春の訪れ祝う魅力的な企画を毎年出しています。早春の忙しさの中でもディズニー・イースターには必ず行くという大勢の人たちが、本物のイースターをお祝いする教会にも来てくれたらな～、と思うのはわたしだけでしょか？教会の聖堂が人々であふれかえる中でお祝いする復活祭を夢見つつ、最近では教会でなかなか若者にお目にかかれないのが気になるところです。もちろん、ベトナムやフィリピン、ブラジルやペルーのたくさんの方々が信仰を守っている姿はとても励まされます。そこに、もう少し日本の若者も加わってほしいとつい思ってしまう。

教区も修道会も、現代の日本だけでなく、いわゆる先進国と呼ばれる国では召命が激減し、あちこちの支部を閉めたり、教育施設や福祉施設から司祭や修道者の姿が消え、外部に向けた本来の宣教活動を縮小せざるを得なくなっている現状が、何となく「エマオへ向かう弟子たち」の姿と重なります。復活節に読まれる聖書箇所でもルカによる福音に出てくる「エマオへの弟子」のお話は非常に意味深く、個人的にもとても好きな箇所です。

ところでこのエマオとはどこでしょうか。それはあまりにも取るに足らない場所だったため、正確な所在地を突き止めることができた人は誰もいません。村と呼ぶにも、あるいは小さな集落と呼ぶにも値しないような場所でした。つまり、どこでもない場所です。そんな「どこでもない場所」へ向かって、この二人は旅をしていました。悲しみと、打ち砕かれた希望と、失望に満ちて。彼らの理想も願望も、すべては敗れ、崩れ去り、消え失せたかのような様子でした。この二人の悲嘆にくれた弟子たちの旅は、おそらく誰もが何らかの形で、人生のどこかの時点で、同じような経験をしているはずで



しかし、そこには大きな誤解がありました。彼らは全く失望する必要などなかったのです。まさにこの復活の日に、彼らのすべての希望は、想像をはるかに超えて成就していました。ただ、それが見えていないだけなのです。実際、イエスが彼らの傍らを歩き始められたのに弟子たちはそれがイエスとは気づきません。それは、イエスの現存に気づかないで日々を生きている多くの人の姿と同じです。しかし世間から見れば「不幸」にしか思われぬ出来事の最中にできえ、神が私たちのそばにおられなかったことは一度もありません。むしろ、神から離れているのは私たちの方でしょう。そして私たちは、自分では神を求めて生きているつもりでいながら、実際にはまったくそうではないこともよくあります。現実には逆方向へ、つまり「どこにも行き着かない道」を歩いていることがあるのです。しかし、キリストにおいて神は真実に「わたし」を探し求め、わたしを見だし、家へと連れ帰り、喜びで満たしてください。キリストは単に現存しておられるだけでなく、私たちを変え、新たに、創り変えてくださるのです。それは、エマオへの道を歩む弟子たちに再び希望と喜びを回復されたのと同じです。

復活の光の中で——弟子たちの目が開かれ、彼らはイエスを見ました。そして今、イエスのうちに、彼らはすべてをまったく異なる仕方で見ようになります。慰めのない絶望に代わって希望が与えられ、さらにその希望とともに、新しい力、新しい命、新しい理解が生まれます。そこで彼らは旅路を引き返し、教会の象徴である聖なる都エルサレムへと、急いで戻って行きました。これが、キリストの現存がもたらす変化です。私たちが否定的なことや困難に目を向けるのではなく、キリストに目を向けるとき、キリストの現存は私たちの人生にも同じ変化をもたらします。もはやわたしたちは「どこでもない場所」に向かって歩むことはありません。私たちが目指すのは「天のエルサレム」。それは一人だけの歩みではなく、エマオの弟子のように「共同体」としての歩みです。ミサの交わりを通して、私たちは互いを、本当の姿で見ようになります。つまり、赦され、贖われた神の子として、ひとつの体の成員として、同じ信仰、同じ洗礼、同じパンを分かち合う者として。イエスは私たちを罪から解放し、天における神との永遠の命を与えてくださいます。そして、その最高の賜物とともに、数え切れないほどの他の賜物を——賜物に次ぐ賜物を——与えてくださるのです。だから、現状がどんなに悲惨でも希望を失うことはありません。

ミサの中で、感謝をささげてパンが割かれる時、私たちは私たち自身の十字架や打ち砕かれた希望もすべて一緒に捧げます。するとそれらはすべて、神のご計画の中に取り上げられていくのです。弟子たちはキリストに「一緒にお泊りください」と願い、パンを裂くときにキリストを認識しました。今、私たちもまた「主は本当に復活された」（ルカ 24 章 34 節）と言い、信頼と希望をもって出かけましょう。